

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295800128		
法人名	株式会社 だんらん		
事業所名	スローライフ汐見台		
所在地	静岡県牧之原市汐見台14-1		
自己評価作成日	令和3年1月23日	評価結果市町村受理日	令和3年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①住宅街に面し、静かで、のどかな場所です。又、近くには小高い山の公園があり季節の花々が咲き、日々の散歩コースになっています。町の避難場所にもなっており安心して暮らせる施設です。</p> <p>②認知症になっても思いである地域で仲間と一諸に笑顔で暮らせるよう支援して行きます。</p> <p>③一人一人の思いや願いを受け入れ、出来る限り利用者様に沿った介護を実行します。</p> <p>④地域の病院と連携を取り、訪問看護を依頼し(週1回)、緊急時の対応に備えています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>前任の管理者が産休となり、昨年11月より着任の新管理者に着任した管理者は、地域ケア会議(①)や認知症サポート(②)に勢力的に取り組んでおり、今後事業所内にその知己が浸透することが期待されています。</p> <p>①…市役所、地域包括支援センター、市内事業所の介護職員、家族が毎月集う「耳より会」に進行係として出席、認知症ケアの課題解決に取り組んでいる</p> <p>②…牧之原市が企画する「認知症初期集中支援チーム」の一員として、認知症またはその疑いのある人や家族を訪問、聞き取りなどを通じて医療と連携を図りながら、病院受診や介護保険サービス利用につながるようサポートする</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	意識し努力している。	理念は玄関に掲示され、朝礼で唱和をおこない意識づけとしています。実践に実る取組みには及んでいないものの、法人が資格取得に積極的で、全額支給で外部研修に参加できる(1名年1回)体制にあります。	理念をもとに個人目標をたてるなど理念の実践が見える化されることで、マネジメントサイクルにのせていくことを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ以前はつながりはあった(小学生。ボランティア等) 今コロナの為交流はない。	町内会に加入しています。コロナ禍で交流は途絶えています。近隣に小規模保育施設やB&G体育館があることから、園児や学童の往来がみられ、暑い時季には「麦茶飲んでいったら」と声をかけています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの為なし。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの為なし。書面にて提出	運営推進会議は市より通達があり、昨年度2月から2ヶ月ごとの活動内容をまとめ、ヒヤリハットなども添えて窓口に出しています。地域包括支援センター、区長、民生委員、家族には郵送をおこなっています。	運営推進会議は条例下の取組みのため、まとめた内容に対するメンバーの意見を収集(電話、FAX等)したうえで、議事録とすることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要がある場合にみ、相談窓口へ相談する。	地域ケア会議的な「耳より会」、認知症のサポートに取組む「認知症初期集中支援チーム」と、管理者が行政事業に協力しています。昨年度の実地指導における指摘事項の是正は書面での確認がとれません。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設は身体拘束0宣言をしている施設である、利用者様の尊厳につとめている。又どうしても拘束しなければいけない場合には、ご家族様に理由を説明し許可を頂いてから行っている。	「身体的拘束等適正化のための指針」を備え、身体拘束委員会を設置、年4回の実施ですが変則的な開催(年4回実施はされていない)となっており3ヶ月に1回ではない)となっており。現任者研修は2回、同じく新人研修は実施されています。	厚労省通達に基づいた適正な運営となるよう、またその実現のためにも所内の書面管理をはじめとする業務体制を見直すことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての学びの機会を中々持つことが難しい状況ではあるが、虐待が見過ごされることがないように身体や精神状態には気をつけてみている。またご家族にも声をかけ不安な事などは管理者に報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員個々の勉強はしているが、全体での話あい、研修は行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明をご家族に実施している。質問等があれば伺っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族様とは話をさせて頂く機会があり要望があれば日頃の介護に反映させています。	コロナ禍で直接家族と面会できないものの、顔を見ることで安心するため、ガラス越しの逢瀬が励行されているほか、受診支援を家族にお願いしていることから、月に一度は家族と過ごす時間をもっています。	現在「事業所通信」の発行がありません。通信に至らないまでも、コロナ禍で面会が十分とは言えない状況を鑑み、スナップ写真や職員によるコメントが家族に届くことを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議をもうけ職員からの意見や提案を聞いている。又内容によっては至急対処している。	毎月の全体会議では、予定時間をオーバーする程活発な意見交換となっていますが、内気な職員もいるため、「グループホームノート」に検討事項を書込んで議題として提示してもらうよう配しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	務める様努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の為会社も積極的に協力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの為なし。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の言葉に耳を傾け、しっかり受け答えをし、信頼関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の言葉に耳を傾け、しっかり受け答えをし、信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の思いを汲み取り共に生活する者として関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの為なし。	将棋が趣味の人には対戦相手があります。農家だった人には畑仕事や草取り、花の手入れに精を出してもらい、現役の頃には清掃業だったという人は塵取りとほうきを握っての朝のそうじが習慣となっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中関係性を把握し、その都度臨機応変に対応し、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様が、相談等に見えたら、必要に応じ相談や支援を行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の言葉に耳を傾け、しっかり受け答えをし、信頼関係に努めている。思いを把握する努力はいつも職員は実施している。	ツールの導入はないものの、一対一で会話できる時間を作るようにしています。同じ事を繰り返す人にも職員は穏やかに対し、できることを探して一緒におこなう姿から、管理者は思いを掴んでいると実感しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所情報にて把握したり不明時はケアマネに確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の様子、心身状態等毎日把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間では全体会議(必要があればその都度)にて利用者様の課題ケアは話あい、介護計画を作成している。	介護支援専門員が勤務シフトにも入っていることから状態を掴みやすく、全体会議や経過記録、職員からの聞き取りを通じてモニタリング及び計画作成をおこなっています。サービス担当者会議には家族も同席してます。	計画と記録が連動し、サービス内容にもとづいたケアが提供されていると確認できる記録になることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過記録として、記録している。職員間でも話あいをし、実践等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。	全員がかかりつけ医を継続、家族が受診支援をおこなっています。バイタル表と一ヶ月の様子をメモして家族に渡し、受診結果は口頭説明を得て「受診結果報告書」に職員が記載しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様には、十分な話あいと説明をし、理解して頂けているが、地域の関係者とは支援に取り組めていない。	総合病院に属する訪問看護ステーションから週に一度看護師が来所しており、24時間オンコールの体制となっていますが、看取りに取り組んでいないことを家族に説明し了承を得ています。一方で、「できれば～」と望む家族は少なくありません。	看取りに取り組めない理由が、「職員の総意が得られていない」点が大きいのことですので、改めて話し合いの場を持ち、方向性を共有していくことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練、研修を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練に参加し、地域の方にも得理解して頂き築けている。	年2回の防災訓練を予定してはいますが、現状は順延されています。指定緊急避難場所(小堤山)までの避難は同じ組の人たちが避難誘導を手伝ってくださることになっていて、地域連携は叶っています。	年2回の法定訓練の確実な実施(年間の事業計画に載せてください)と全職員が訓練メニューを網羅できることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけは丁寧に、プライバシーは守り対応している。	名前はさん付けとし、否定語は使わないことをホームルールとし、「トイレではドアは閉める」「居室前ではノック」など、基本的なマナー、エチケットは遵守され、リビングで過ごす利用者の表情も穏やかです。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の自己決定を尊重させていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活スタイルはあるが、個々のペースも尊重し、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナの為出来ていない。	朝は介護職員が、昼・夕は調理専任者4名がシフトを組み、旬の食材で家庭的な献立が提供されています。栄養士によるメニュー構成ではありませんが、「肉と魚を重ねない」「一汁三菜で」を慣行しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。いる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後は必ず、誘導しケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	情報を共有し、自立にむけて支援している。	半数以上が、尿意があって自分でトイレに向かう、若しくは時間で声かけしたら失敗はなく、おむつを使う人もいません。排泄チェック表で排便のリズムを掴み、冷たい牛乳や緩下剤で調整できています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来ていない。	週に2回、午前中を実施目安とし、湯は足し湯です。100歳となる人と片麻痺の利用者は、併設事業所の特浴を借りています。柚子や薔薇、林檎、蜜柑などを浮かべ、季節感のある入浴を楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援できていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出できない分、室内で楽しめる様努めている。個々の好みに応じ食事等対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為外出は控えているが、施設周りの散歩等は努めている。	好天であれば、車いすであっても散歩には毎日出かけ、小堤山や波津沢神社などを周遊しています。併設事業所の車輛を利用したドライブは少人数での移動で、フラワーパークなどで季節の花を楽しんだり、海を眺めて気分転換を図っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナの為できていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	しています。	共用空間にはぬり絵など利用者の作品を展示しており、ソファで居場所をつくっていません。コロナ対応で清掃は厚くしており、清掃専用液で朝と夕方一日2回ベッド柵やコンタクトポイント、床を拭き、換気は時間を決めて一日3回実施し、衛生管理を図っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来ています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせるようしたいが、事故等の危険があり、すべてを要望通りには出来ていません。	夜間危険がないよう、ベッドから戸口への動線に配慮しています。居室には低床電動ベッド、エアコン、ナースコールが備わっています。ソファやテレビが持ち込まれ、家族や孫の写真を並べる人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の合意のうえ、自分で移動できる方で動きが悪くなってき方をWCに近い部屋に変える、転倒リスクがある方を機能訓練室に近い部屋にするなどして、自分で行動出来る様工夫しています。		